

2022/04/09 (土) 鍋倉山 1288m (残雪山行)

メンバー：L 谷内、野中、岩田、福田、辻(記)、小嶋、石原 (見学者)

最後の最後に思わぬハプニングが待っていた。民家の向こうに車が見え、もうすぐ到着と思っていたら「わあ！」と大きな声。後ろを振り向くと、見学者のIさんが首だけ出して雪の中。用水路の上を「ズボ！」と踏み抜き陥落。まるで落とし穴にはまったような状態で本人もびっくり！幸いパイプの上だったみたいで濡れることなく助け出された。残雪山行は手首骨折、捻挫とトラウマ有りの自分ですが、今年は何とIさんだった。

恒例の残雪山行、低山ながら360度の眺望がある鍋倉山は2年ぶり。豪雪地帯の飯山は未だ田んぼや畑に雪が残り、道路脇にはまるでブロックを積み重ねたようなテトラポット状態の雪の塊があちらこちらに積まれていた。7時過ぎ、温井集落終点、冬季通行止め前の路駐は5~6台。ほぼスキーヤーかボーダーの模様。

ツボ足で田茂木池近くまで雪面を歩き、一旦うず高く除雪された林道を歩く。田茂木池を迂回した後、尾根筋のルートをとる。雪解けの水かさを増した川音がゴーゴーと聞こえてくる。ざくざくした雪はツボ足でもそれほど沈むことなく、鳥の鳴き声を聞きながら超スローペースでゆっくり登る。20代~70代まで7人、年齢層はバラエティにとんでいるが終始賑やかな話声が聞こえていた。

登るにつれブナの木が太くなっていく。ここのブナ林はとても見事だ。豊富な雪に守られているのだ。スキーヤーにとってはゆったりしたコース取りができ、たまらなく魅力的なのだと思う。リーダーがブナの木に聴診器をあてて水を吸い上げる音を聞いてみたが、まだ目覚めていないのか「あまり聞こえない」と言った。残念！

急登ではあったが、ゆっくりペースの歩きはさほど疲労感もなく山頂にたどり着けた。広い山頂には4~5人のスキーヤー。思ったほどおらず自分達が一番賑やかだったかも。360度の景観(日本海、越後の山々、高妻山、乙妻山、妙高山、火打山)を楽しみ、和気あいあいと昼食を摂る。

「ゆっくり下りましょう」のリーダーの声は一体何だったのか？3時間越えの登りをわずか1時間強で激下り。いつもながら早いこと限りなし。どこを歩いてもOK状態で駆け降りるように下っていく。約2名は尻セードで歓声を上げ、皆一様に雪山を楽しんでいた。

快晴の真っ青な空と雪山のコントラストが美しく、とても満ち足りた気分の残雪山行となった。路駐の車はかなり下までつながっていた。一週間前のヤマレコに「急斜面は凍っていてアイゼン着用」とあった。一週間で一気に春山になったようだ。

【コースタイム】 天気:快晴 風ほぼ無し

ぬくい 温井集落終点、路駐 07:20~10:45 鍋倉山 下山開始 11:20

12:35 温井集落終点、路駐(冬季通行止め手前道路)

除雪された林道



尾根に向かうスキーヤー



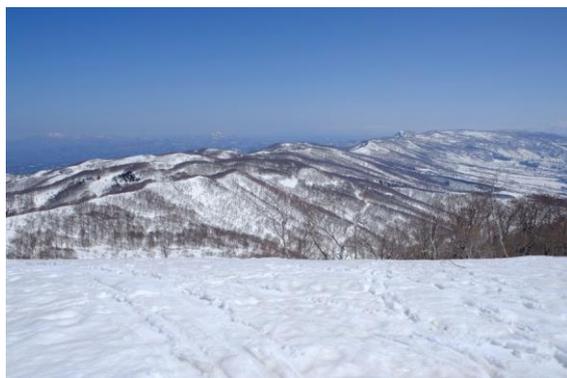
妙高山&火打岳



だんだん太いブナの木が増えてくる



関田山脈



広い山頂、三角点は雪の下



りっぱなブナの木



駆け降りてる!!

